

平成14年度 事業報告

財団法人 日本セーリング連盟

総務事業

広報委員会 (委員長:大山 副:浪川・柳澤・池垣)

<p>機関誌「J-Sailing」を年6回発行、新規の広告主も獲得できました。</p> <p>一方、協賛企業への詳細な活動報告を行うと共に広く適時情報を伝える等、担当分野を分けて委員を充実させ、とりわけ、JSAF Websiteの運用にはTOTOの補助金が獲得できたこともあり、さらなる充実を図りました。</p> <p>TV放送番組制作協力・新聞取材協力・一般誌への情報の提供等、巾広くセーリング界の活発な活動を各方面へアピールする事を努めました。平成14年度初めにご報告致しました、以下の項目を重点的活動要件として、更なる展開を目指して委員一同鋭意活動いたしております。</p> <p>(1)機関誌「J-Sailing」を予算の関係で回数が減りましたが、年6回発行、広く一般セーラーに興味の持てる内容を充実させるという方針を新たに設定し、新しい執筆者の協力を得て、連載、ノウハウ記事、海外情報の翻訳等を掲載。又、理事会だよりの頁を設定して連盟の活動の要点を適時登録者に広く知らしめる、更にレース結果等については詳細をWebsiteに掲載しております。</p> <p>(2)「アテネの海に日の丸を」オリンピックキャンペーンの一環として、機関誌 J-Sailing 別冊「Sail Your Dreams」を発行。J-Sailingとは趣きを変えて編集を行い、特に、オリンピックキャンペーン協賛企業に対して、連盟の活動を強くアピールする事に力点を置くことを意識してイメージを構成し、編集しております。</p> <p>(3)Websiteの運営に関しては、新たに人材を確保して、きめ細かいメンテナンスを日常的に実施。リアルタイムな情報の伝達、諸組織とのより密度の高い連携によるセーリング界全体に渡る情報の公開伝達に向けて、徐々にシステムを整備しつつ運営の強化に努めております。(TOTOの補助金事業)</p> <p>(4)マスコミ名簿の見なおしを行っております。また、マスコミとの良好な関係を築くため、親交・交流を深める施策も検討中。</p> <p>(5)機関誌やWEB以外に、広く、セーリング自体のブランドアップを図る施策を検討中。一朝一夕にはいかないが、長い目でみた戦略が必要と考えます。</p> <p>このテーマを平成15年度最大の課題と位置付けたいと考えております。上記のとおり、委員15名(地方も含む)にて鋭意活動を致しております。</p>

国際委員会 (委員長:広瀬 副:富田)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
ISAF Mid Year Meeting	5月	Hilton Viena オーストリア	Council 穂積氏、Events Committee 広瀬 2名参加 1.ISAF構造改革とJSAF財政 2.アテネオリンピック参加資格の選定方法策定 3.オリンピック及びISAF Eventsのルール明細の検討 4.イングリングの参加選手規定-体重制限他 5.Youth Worldの運営方法 6.オリンピック種目選定の方策
ISAF Annual Meeting	11月	Limassol キプロス	穂積・広瀬・柴沼・鈴木・富田・戸張・清水・大谷氏 8名参加 1.オリンピック参加資格レース実施細目 2.Windsurfing艇の選考 3.Mixed Sailingの導入について 4.オリンピック種目選定について 上記他 ORC、ルール、女子など多岐に亘る
<反省・問題点等> 各ミーティングの討議項目については、夫々の報告書を参照			

総務委員会 (委員長:平賀 副:栗原・中山・市原)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
(1) 総務関係			
a. 運営規定の整備と正しい運用の指導	通年	内部	整備はほぼ出来た、運用は不十分
b. 評議員、理事の選出に係わる新しい制度の確立	通年	内部	時限立法に終わっている
c. Nオーソリティとしての位置付けの明確化と共に加盟団体、特別加盟団体等との関係について明確にすると共に成文化する	通年	内部	不十分
d. 会員制制度の見直しと管理システムの確立	通年	内部	全く出来ていない
e. 各種団体の加盟を促進し普及活動を支援しメンバー数の増強に努める	通年	内部	不十分
f. 保険制度の広報に努め加入を促進する(特にセラーズ保険、旧Jの総合賠償責任保険、旧Nの主催者賠償責任保険)	通年	内部	ある程度出来たが協力が不十分
g. インターネットの活用システムを確立し、各委員会へ積極的な利用を促し、タイムリーな情報公開に努める	通年	内部	不十分、広報との連携が必要
h. 広告規定の見直しと運用管理	通年	内部	全く出来ていない
i. 外部団体、および個人との各種委託契約内容の見直しと契約書の締結を徹底する	通年	内部	不十分
j. 連盟の推進する各種事業の評価を通じて原価意識の徹底化を	通年	内部	ある程度出来たが十分ではない
k. 小型船舶免許制度に対応するため、乗船経歴の記録に関する制度の導入について連盟の対応を検討する	通年	内部	行政への要求は認められた
(2) 表彰関係			
a. 連盟内の基準の確立と運用	通年	内部	ほぼ整備された
b. 外部団体より表彰された会員の表彰記録を整備し、セーリング活動を通じた社会的貢献の成果をPRし普及につなげる	通年	内部	出来ていない
(3) 経理関係			
経理関係規定の整備と正しい運用の指導	通年	内部	整備はほぼ出来たが運用は未だ
(4) システム化の推進			
事務局内の事務処理、および各委員会、各種団体との関連事務処理を見直し、電子システム化により合理化を推進する	通年	内部	ほとんど出来ていない
<反省・問題点>			
業務改革、改善部分については、毎日のルーチン業務遂行の中で実行する必要があるが、あまり成果を上げることができなかった。一方、規定の見直し、新規作成、および対外的な働きかけ、交渉などの部分についてはかなり成果を挙げることができたと思う。			

事業開発委員会 (委員長:平賀 副:山口)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
(1) 財政健全化を基本としたグッズの取扱			
a. 時代のニーズに対応したグッズの開発	通年	内部	出来ていない
b. 女性向けグッズの制作販売	通年	内部	出来ていない
c. 連盟をアピールするグッズの開発	通年	内部	出来ていない
d. 団体をはじめ、各種レース開催地でのグッズ販売強化	開催時期	開催地	ある程度成果を出したが、採算性は期待できない
e. カレンダー2003年版の制作販売	通年	舵社	ほぼ満足できた
(2) 滞留在庫の一掃	通年	内部	ほぼ満足できた
<反省・問題点>			
今年は連盟の財政の健全化のもと、滞留在庫減額が最大の目的だったので、その点ではある程度の成果を上げることが出来た。その反面、従来の在庫商品の補充発注のみで、新商品開発の面では全く手を出ることが出来なかった。今後はイベントの企画、実施などの収益性のある事業を開発してゆく必要があると思う。			

外洋法規委員会 (委員長:渡辺 副:今北・林)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
小型船舶の検査規程や登録制度に関する利用者としての要請	10月・2月	JCI本部	日本小型船舶検査機構とJCI-JSAF意見交換会(小型船舶関係懇談会)を開催し、小型船舶検査基準や小型船舶登録制度についての取扱いの簡素化や規制緩和の要請を行い、小型船舶用救命胴衣の技術基準の改正や汽笛・号鐘の基準緩和等が行われた。 また、ISAFの動向や各国の小型船舶ルールの動向についての情報交換を行った。
総務委員会と連動した小型船舶免許制度改正への要請	通年		総務委員会と連携して、ヨットとしての免許制度のあり方を進言し、ヨットに対する免許更新時の乗船経歴の採用や自己操縦基準の例外が認められた。
法規委員会の開催	通年	田町事務所他	事業を円滑に進めるために法制委員会を開催した。

**普及事業
普及委員会** (委員長:浪川 副:猪上・三井)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
ファミリーレース	7~9月	各水域	家族共々参加するセーリング、安全思想の普及セーリング参加者の拡大に効果があったライフジャケットの着用を義務づける事をしたい。
海の道(マリノード)整備への協力	通年	東京湾・相模湾水域	海上保安庁のマリノード整備の事業に協力、委員会参加、トータルスキップの作成に協力。小さなクルージングが全国で出来るようになっていきたい。
<反省・問題点> 本委員会は、安全・通信委員会や安全普及委員会と機能が重複している部分が多いので整理統合して行く事が望ましい。			

水域活性化委員会 (委員長:水谷 副:西原)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
懇談会	10月	静岡県御前崎 特設マリナ	静岡国体のリハ-サル大会に集った各地県連の代表者と懇談 リハ-サル大会の為、指導者層が若く実情把握が不十分 レース開催中につき個別懇談しか出来なかった。 予算、日程の都合もあるが水域ごとの会議に向き、意見交換を行うのが望ましい。

安全通信委員会 (委員長:三井 副:浪川・野口)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
JSAF特別規程の改訂	通年	委員会	ISAF-SR 2002-2003の翻訳とそれによるJSAF-SR 2003-2004の発行 (HP上)
全国安全講習会の実施	12月	神奈川県・佐島M	JSAF-SRの運用、統一解釈の確立
JSAF-SRカテゴリ登録	通年	委員会	カテゴリ登録制度の策定、公式サイトへの掲出準備
VHFの利用促進	通年	各水域	通信手段としてのVHFの普及促進、携帯電話との併用方法の検討。
既存通信施設維持	通年	神奈川県・三崎	既存施設の維持、HP施設の運用検討。
<反省・問題点> JSAF-SRの改訂作業が遅れてしまい、カテゴリ登録手続きに混乱を来した。 年次予算が不足している為、SR冊子の出版が出来ない。			

指導者委員会 (委員長:斉藤(威) 副:松田(任)・進藤・野口)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
「安全指導者講習会」 加盟団体、マリンスポーツ関係者を対象とした、セーリングの普及・組織づくりに関する講習会	11月	東京都夢の島マリナ	参加者67団体、77名、JSAF出席者15名。 マリンスポーツの学校教育への導入やその為の指導者のあり方について講演があった。特にニュージ-ランドにおける青少年の水辺教育の実体験についての講演は興味深いものであった。 今後女性の参加が増えるよう案内したい。
「C級コーチ専門科目講習会」 文部科学大臣認定の公認コーチを養成する講習会	前期 12月 後期 2月	愛知県 (海陽ヨットハーバー) 佐賀県 (唐津ヨットハーバー)	受講生20名、講師(JSAF)延べ28人 前期はナショナルチーム選考レースから学ぶ、後期はコースクニックから学ぶをテーマに講習会を開催した。併せて講師を講習生による選手育成・指導・強化についての議論も活発に行われた。 平成15年はB級コーチの専門科目講習会を開催する。
「公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会」 公認スポーツ指導者を対象とした講師の研修会	2月	沖縄県 佐敷マリナ	研修生25名。講師関係者(JSAF)9名。 オリンピック強化チームの沖縄合宿に、現在もしくは今後公認指導者養成の講師となる今日かコーチを対象にチームレースのルールを中心とした研修を行った。(15年度も予定)
<反省・問題点> 安全指導者講習会については、[セーリング人口の減少を「地域スポーツクラブ」の中で子供から大人までが楽しめるシステム]により増加に転ずることが出来るのではないかと、という今までの講習を実務レベル、具体的な取り組み方法についての講習に充実させて行きたい。			

レディス委員会 (委員長:倭 副:一條)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
Enjoy Sailing Day 体験レース	7月	神奈川県 葉山マリナ沖	一般募集を各ヨットハーバー、ヨットクラブ、葉山町、三浦市役所の掲示板にポスターを貼付、ラジオ、雑誌に案内をした結果定員を上回る参加申込を受け、クルーザーでセーリングを楽しみ、充実した体験セーリングでした。来年に向けては、このイベントを開催することを希望する。
チャイルドルーム	9月	高知国体会場 (夜須町)	初めての試みであったが、運営全般的には問題もなく、利用者の意見は、好評で日本体育協会・文部科学省・マスコミ等より高い評価を受けた。
	10月	静岡国体リハーサル会場 (御前崎港特設マリナ)	今回は、保育士の常駐により、前回より一歩進んだ対応となり利用者からも好評でした。
<反省・問題点> 体験レースの反省点は、参加者の継続についてどのような対策を考慮したらよいか。			

育成委員会 (委員長:名取 副:清水)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
JOCジュニアオリンピックカップ2002 &平成14年度JSAFユースセーリング チャンピオンシップ	5月	佐賀県唐津市 佐賀県ヨットハーバー	・事前に予選会を実施したため、高いレベルでのレースが実施できた。 ・多数回のレースが実施でき、実力差を公正に判断することができた。 ・特に29erでは9艇でのレースが実現し、個々の選手の技術力と考え方がステップアップした。
<反省・問題点> ・女子ボード選手の参加がなく、実態の把握と関係諸団体との情報交換等に課題を残した ・反省としては、委員会の年間スケジュールの告知が遅れ、各クラス協会との調整に手間取った事 対策:各水域の情報や選手が持っている情報を集約できるシステムを構築する 対策:期首にラフ案でよいかから年間スケジュールを告知し、各クラス協会と早めに協議する			

競技事業

ルール委員会 (委員長:柴沼 副:都築・鈴木(明)・川北)

<p>1、RRS改定関連の公示</p> <p>(1)2002.6.10 ISAF規定の変更に伴うRRS付則 節の改定2002年補遺2</p> <p>(2)2002.6.10 付則A - 得点の一部改定</p> <p>(3)2002.6.10 付則1「広告の定義」の日本語訳の変更</p> <p>(4)2003.3.1 ISAF規定の改定に伴うRRS付則 節の改定2003年補遺3... 別紙参照</p> <p>(5)2003.3.1 ISAF規定22(ISAF Classification Code:競技者分類規定)</p> <p> 関連:ISAFコールブックの2003補遺が公表された</p> <p> * 現在あるコールの変更 Call Ump 6, 26, Call MR 10</p> <p> * 新しいコール Call Ump 32, Call MR 37</p> <p>(参考)・ISAF Rapid Response Match Racing Call 2003/001が公表された</p> <p>2、A級ナショナルジャッジ認定講習会・試験・認定</p> <p>・日 時:平成14年11月30日(土) ~ 12月1日(日)</p> <p>・場 所:福岡市小戸ヨットハーバー</p> <p>・受講者:7名(認定者5名:城文秋, 田中郁也, 中村敏夫, 藤田伸二, 吉留容子)</p> <p>・その他:平成13年度保留とされていた山口泰正は認定された</p> <p>3、ナショナル・アンパイア認定講習会・試験・認定</p> <p>・日 時:7月19日(土) ~ 20日(日)</p> <p>・場 所:葉山マリナヨットクラブ並びにその沖合い</p> <p>・受講者:12名(認定者8名:田中正昭, 高田俊男, 岡部幸司, 前園昇, 関谷真一, 高野由美子, 篠原大治郎, 坂文彦)</p> <p>4、国際大会へのインターナショナル・ジュリー等の派遣</p> <p>・OP級アジア選手権大会(中国・青島/8月下旬) ... 鈴木明善(IJ/IU)</p> <p>・アジア大会(韓国・釜山/10月上旬) ... 柴沼克己(IJ)・秋元和子(IJ)</p> <p>・アクセスディンギー国際大会(大阪/10月中旬) ... 秋山福夫(IJ)・山岡閃(NJ)</p> <p>・オリンピックウィーク(福岡/10月下旬) ... 秋元和子(IJ)・岡部幸司(NJ)</p> <p>5、国内各大会・講習会等へのジャッジ・講師等の派遣</p> <p>・国体・国体リハーサル大会・ナショナルチーム選考レース等へのジャッジ、アンパイアの派遣</p> <p>・C級コーチ講習会・ナショナルチーム強化合宿への講師の派遣</p> <p>6、最高判委員会委員のプロテスト委員会委員等への就任についての承認 ... 2件</p> <p>7、toto(スポーツ振興くじ)助成事業の実施</p> <p>(1)ルール講習会</p> <p> 全国10箇所にて開催し、計414名の受講者。</p> <p>(2)ISAFマニュアルの翻訳・出版</p> <p> 2件の対象マニュアル(アンパイア&マッチレース・マニュアル、ジャッジ・マニュアル)の翻訳については既に作業を完了しており、現在を監修作業中。(印刷が出来次第、HP等にて頒布案内をする)</p> <p>(3)規則42(推進方法)講習会用ビデオ制作</p> <p> 海上におけるビデオ撮りは終了し、3月21日~23日に英国のISAF本部で開催される国際審判委員会義(IJ Conference)</p>

にて行なわれた規則42の論議に基づくワーキングパーティーの結果を待って編集・製作することになっている。JSAF・WEBSITE等にてビデオ頒布の予約募集した。送付は当初4月末までには完了する予定であったが、ISAF編集作業の遅れに伴い6月にずれ込んだ。(1本 3,000円/送料・梱包料等は別途)

8、ISAFレースオフィシャルズ申請(IJ/IU推薦)について
IJの申請が1件あったが、当委員会の小委員会であるIJ/IU候補者推薦委員会にて審査した結果、推薦を「適」とするに至らなかった。IUについては、申請はなかった。

9、ルール委員会史(旧JYA/NORC)年表の編纂

10、ISAF関係委員会への参加
・ISAF年次会議/キプロス/11月(大谷、鈴木(明)、柴沼)
・ISAF国際審判員会議/サウザンプトン/3月(大谷、柴沼)

11、平成14年度ルール委員会/他
第1回 平成14年6月9日(日)、岸記念体育会館会議室
第2回 平成15年3月15日(土)、岸記念体育会館会議室
その他:理事会・委員長会議への出席
事務局の事務処理～毎水曜日(JSAF事務局)

レース委員会 (委員長:末木 副:戸張・池田・大庭)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
1.レースマネージメントセミナー (併、エリア・レースオフィサー認定講習会(試験))の開催			第1回のレースマネージメントセミナーを全国6会場において開催し、213名が参加した。レースオフィサーに関する種々な情報交換を行い、好評を得た。併催したARO試験には88名が受験、全員が合格した。 レースオフィサー・トレーニング・キット(レベル1)をパワーポイントで作成し、AROセミナーにおけるスライドショー形式の教材として用いた。
2.クラブ・レースオフィサー制度 の制定、認定講習会の開催			上記セミナーに併催の今年度発足したCRO認定講習会に64名が受講、認定された。 上記の結果、NRO82名、ARO356名、CRO64名となり、レースオフィサー制度も全国に普及、一応の体制が整ったと思われる。さらにその登録名簿も整備され、各水域への情報発信がより容易になった。
3. レースマネージメントマニュアル の翻訳、販売			ISAF発行のレースマネージメントマニュアル(2002/3版)を翻訳して日本語版を作成、レースマネージメントの教材として頒布を開始した。
4. チームレース・セミナーおよびレース開催			チームレースプロジェクト、ルール委員会と共同で、全国4会場でセミナーおよびレースを開催した。
5. ヤードスティック・ナンバー-2003の発 6. その他			昨年に続き、ヤードスティック・ナンバーの改訂版(2003年版)を公表した。 高知国体、静岡リハーサル国体、ユース・チャンピオンシップ、オリンピック・ウィーク等のレース運営支援を行った。
<反省・問題点等> 今後、外洋を含めたレースオフィサー制度の維持管理、競技大会へのRO起用システム、レースマネージメントに関する種々な要件の標準化などについて、その具体的方策を計画、実行する時期にあると考える。			

計測委員会 (委員長:福田)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
セーリング装備規則(ERS)講習会	8月 9月 10月 11・12月	東京 福岡 西ノ宮 札幌	スポーツ振興基金助成事業として実施 北海道セーリング連盟、外洋北海道の協力により施行。 ISAFより発行された、セーリング装備規則2001-2004、セール計測ガイド2001-2004の和訳版を完成前記講習会にて配布した。 JSAFホームページにERS2001-2004、Guide to Sail Measurement2001-2004の原文及び和訳を上訂した。
ORCクラブルール及び計測方法等の講習会	4月	青森	外洋津軽海峡の協力により施行した。
高知国体に役員を派遣	9月	夜須町	
静岡国体リハーサルに役員を派遣	10月	御前崎・相良町	
ISAFノーベーター会議に委員を派遣	11月	キプロス	
外洋小委員会の運営規則を制定	12月		
ORCクラブルールの和訳	2月		完成し、JSAFホームページに上訂した。
ORCクラブルールを発効	2月		従来志向されていた暫定運用規則を廃止した。

技術委員会 (委員長:林 副:菊地)

(1)(財)日本船舶標準協会の依頼により、ISO企画作成に意見具申した。

(2)外洋法規委員会に協力し、規制緩和に向けて、JCIと意見交換をおこなった。

競技力向上委員会 (委員長:山田 副:昇・大塚・小松・松山・清水)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
1. JOC「競技者育成プログラム」策定のためのモデル事業の実施	年間	・日本国内各地 ・フランスマルセイユ ・オーストラリアメルボルン ・ニュージーランドオークランド	・中長期一貫指導を今後展開していくための準備が整った。 ・「JSAFゴールドプラン」を作成する事が出来た。 ・海外ヨット事情調査を3カ国で実施した事で、一貫指導の考え方が整理出来た。
2. オリンピックウィークの開催	10月	福岡県 小戸ヨットハーバー	・高体連、学連等の階層別団体との間で連携する準備が出来た。 従来江ノ島で毎年開催していた同大会を始めて他水域で開催する事が出来有意義であった
<p><備考:反省点等></p> <p>1. JOC「競技者育成プログラム」策定のためのモデル事業、 ・指導者マニュアルの完成が出来なかった。 ・年間を通しての事業であったが、準備が間に合わず年度後半に事業が集中してしまった。</p> <p>2. オリンピックウィークの開催 ・ジュニアからトップアスリートまでが一同に会した大会とのコンセプトであったが、ジュニア・ユース世代の参加がなかった。</p>			

特別委員会

財務委員会 (委員長:栗田 副:岩田(行))

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
寄附金 賛助会員(継続増加)	年間 年間		フォーシーズ(ビザラ) 賛助会員の皆様に連絡・訪問、継続のお願い等の活動。
<p><反省・問題点></p> <p>個人の賛助会員の増強、新規開拓に力を入れる。</p>			

アテネオリンピック委員会 (委員長:松田(健) 副:斉藤(渉)・田中)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
御前崎強化合宿	6月	静岡県御前崎町	アテネオリンピックを目指す有望選手の競技力向上を図ることを目的とした合宿。条件(ハーバー、海面、風、なみなど)に恵まれ集中した練習を行い、選手自身の競争心、向上心を高めることができ、充実した合宿であった。海に出られない日のカリキュラムの用意することも必要である。

ブレブレオリンピック大会	8月	ギリシャ・アテネ	成績は470級女子の11位が最高であったが、本番と同じ時期に本番の海面でレースを経験し、本番へ向けて各種情報を得たことの意義は大きい。
470級世界選手権大会	8月-9月	イタリア・サルジニア島	470級男子の石橋・後藤組が国別出場枠を獲得できた。他の種目は2003年9月の世界選手権で国枠を獲得することを目標とする。
アジア競技大会	9月-10月	韓国・釜山	金1個、銀3個、銅3個、4位2人と参加選手全員が入賞しほぼ目標を達成したが中国、韓国には惨敗した。しかしオリンピッククラスではないがOP級男子の優勝、女子の2位は次回へ期待が持てる。
オリンピックウィーク	10月	福岡県・小戸ヨットハーバー	470級男子の石橋・後藤組が海外から招聘したポーランド、オーストラリアチーム相手に走り勝っており期待できる。
ナショナルチーム選考レース	12月	愛知県 蒲郡海陽ヨットハーバー	ミストラル級を除き2003年ナショナルチームを選考した。470級は男女とも最後まで混戦状態であった。特に女子は若手が台頭してきた。選考された選手全員にドーピング検査を実施したが、陽性はなかった。
ミストラル級世界選手権大会	12月	タイ・パタヤ	男子の最高位が国別16位、女子が12位で国枠獲得にはもう一歩及ばなかった。今大会の順位で2003年ナショナルチームを選考した。
沖縄冬期強化合宿	1月-2月	沖縄県佐敷町・知念村	アテネオリンピックを目指す有望選手の競技力向上を図ることを目的とした平成14年度2回目の合宿。条件(気温、海面、風など)に恵まれ集中した練習ができ、戦術面、技術面の向上が図れた。9月のスペインにおける世界選手権に向けて手ごたえが感じられた合宿であった。
<p><備考:反省点等></p> <p>平成14年度の目標であるアテネオリンピック国別出場枠が獲得できたのは470級男子のみであった。9月のスペインにおける世界選手権大会では数種目の国枠確保に向けて努力すると共に、アジア大会での惨敗をふまえて次世代の優秀選手の発掘・育成を競技力向上委員会と連携して行うことの必要性を痛感した。</p>			

アメリカス'カップ委員会 (委員長:山村 副:青山)

特になし			
------	--	--	--

国体委員会 (委員長:昇 副:古谷・清水・森)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
1. 第57回国民体育大会 高知県体を開催	9月	高知県夜須町	・成年女子二人乗りの種目は全てがセーリングスピリッツ級で参加した。 ・各種目3~5レースを実施した。
2. 第58回国民体育大会 静岡リハーサル大会を開催	10月	静岡県 御前崎・相良町	・各大会・各種目5~7レースを実施した。
3. 静岡県、埼玉県、岡山県の 国体開催予定地の準備 支援を実施			・競技運営方法及び運営施設等の検討協議 ・レース海面の設置場所等についての協議

4. 第63回大分国体 (平成20年)開催地内定に係る中央競技団体正規視察の実施	11月	大分県別府市	・開催地内定に伴う大分県、別府市、地元県連との協議及び現地調査
5. セーリングスピリッツ級の普及活動の実施 第3回全日本セーリングスピリッツ級大会開催 セーリングキャンプの開催 ・海陽SS級選手権大会 ・SS級オープンレース ・SS級オープンレースIN名取 ・中国SS級オープン選手権大会 ・海陽セーリングカップ 指導コーチ派遣の実施 アンケート調査の実施	10月 5月 7月 8月 8月 8月 3月 9月	静岡県 御前崎・相良町 愛知県蒲郡市 高知県夜須町 宮城県名取市 山口県光市 愛知県蒲郡市 岡山県牛窓町 全国	・各水域にて普及活動を図る。 ・平成17年の国体会場にて艇の性能等について指導等を実施した。 ・SS級の性能及び改良等についてアンケート調査を実施した。
6. 国体改革及び簡素化等の検討			・(財)日本体育協会の指導による国体改革案について検討を行った。 ・平成18年兵庫国体から少年男女にSS級の導入を図る。
7. 国体研修会の実施	1月	東京	・高知県、静岡県、埼玉県、岡山県、兵庫県、秋田県、大分県の関係行政及び県連と研修会を実施した。
8. 国体ウィンドサーフィン級、SS級の年度登録管理			
9. 国体参加資格規定の周知と啓発活動の実施			

医事委員会 (委員長:上原 副:木村・米山)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
救護活動(5件)	5月 6月 8月	野尻湖 江ノ島 江ノ島 霞ヶ浦 葉山	
アンチドoping等活動			・蒲郡にてドoping検査(ナショナルチーム)10検体 ・強化指定選手より服薬相談(4件)
<反省・問題点等>			
<p>・海外遠征チームよりの医療相談 2件 電話、メールで対処</p> <p>・14年度よりドopingコントロール時にドoping検査員の資格が必要になり、JSAF医事委員会委員は4名が資格を習得しました。5名が講習会を受講し、実習中です。国体でドoping検査が実施されることになり、セーリングの分野でも大きな動きになると思われますので、体制を整えていきたいと思っております。</p>			

科学委員会 (委員長:玉木 副:宮林)

(1)2002年12月末に八景島で開催された470級冬期合宿参加者の体力測定及び評価を行った。
(2)2003年2月に開催されたC級コーチ講習会において、セーリングの専門的体力づくりについての講義を実施した。
平成15年度も各委員会等の依頼により、サポート活動を実施していく予定です。

子供・夢委員会 (委員長:浅野 副:岩田(直))

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
			・子供の浪漫をかきたてるセーリング活動 ・セーリングの普及を目的とした事業推進

日本一周キャンペーン (代表:松本)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
			”海をきれいに””Discover Sailing””アネの海に日の丸を”の三つのフラッグをJSAFメンバー艇が中心になって港から港にリレーしていく。港では多くの人達の協力を得ながら環境問題、体験乗船、オリンピックキャンペーンなどのイベントを行い、JSAFメンバー全員参加型の手作り活動を2年間で日本一周を果たす。